NEWS

JAAF HIROSHIMA
陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会
第88号
H30.3.24発行

駅伝の高屋中

広島県史上初、全国中学校駅伝男女で出場!!

陸上人　　# FILE0025

男女が負けまいとお互いに意識しあった

チーム高屋

駅伝チーム　東広島市立高屋中学校　*Takaya Junior High School*

中国中学校駅伝の足跡	男子	女子
2017年度（平成29年度）	優勝（全国:準優勝）	優勝（全国:第18位）
2016年度（平成28年度）	優勝（全国:第22位）	第3位
2015年度（平成27年度）	第3位	第3位
2014年度（平成26年度）	第7位	第2位
2013年度（平成25年度）	優勝（全国:第11位）	第2位
2012年度（平成24年度）	第2位	第3位

※2011年度（平成23年度）／優勝〔全国:第6位〕　※2003年度（平成15年度）／優勝〔全国:第3位〕
※2002年度（平成14年度）／優勝〔全国:第3位〕

2017年、「駅伝の高屋中」の名前を全国舞台に刻み込んだ。広島県史上初めて、全国中学校駅伝（滋賀県）に男女でアベック出場。男子が堂々の準優勝、女子も18位と健闘し、湖東の地に大きな足跡を残した。

全国切符を懸けた11月19日の中国中学校駅伝（東広島市）。まず先頭でフィニッシュテープを切ったのは女子だった。1区16位とやや出遅れたものの、2区山際夏芽主将の13人抜きの好走で挽回。3区田中美鈴が区間賞の力走で一つ順位を上げ、4区西谷莉菜がライバル坂をかわして首位へ浮上。アンカー進藤綾乃が坂の猛追を振り切ってゴールした瞬間、全員で抱き合い、14年ぶり優勝の喜びを爆発させた。

男子も続く。1区小江幸人が2位発進し、2区のエース吉本真啓主将が早々と先頭へ。以降は危なげなくつなぎ、アンカーの1年中田透羽も**「沿道の声で、女子の優勝を知った。励みになった」**。区間賞の力走で2位三原五中に39秒差をつけ、2連覇のフィニッシュテープを切った。

中国中学校駅伝は1938年に始まり、91年に女子の部がスタート。2002年男子を制した三原五中は女子が5秒差の2位、05年にも八本松中が男子優勝、女子2位とあと一歩で偉業を逃してきた。女子スタートから27年目で実現したアベック優勝を、導いたのは就任1年目の鈴木晶雄監督。**「（前監督の）大瀬戸積先生に土台を築いていただいたおかげ。地域や保護者の皆さんの支えも大きい」**と控えめに喜びを語った。

男子が2年連続4度目、女子は14年ぶり3度目。アベック出場の効果は着実に表れた。以後の練習では**「男女が互いに負けまいと、いい意味で意識し合った」**と鈴木監督。そんな充実した調整が12月17日、全国中学校駅伝で花開く。

午前スタートの女子が力走の口火を切った。エースがひしめく1区で、山際主将が10位発進。以降も全国の強豪チームに食らいつき、一時は8位入賞を射程圏内に捉える健闘を見せた。「15位以内」という目標には届かなかったものの、山際主将は**「順位は満足できないけど、楽しかった」**と大舞台で堂々のレースを披露した。

チームの過去最高順位（6位）の更新を目標に掲げた男子は、さらに大きなインパクトを残す。1区の吉本主将が優勝候補筆頭の白山（千葉）などと果敢に先頭争いを演じて7位で発進。2区小江が5人抜き、区間2位の好走で勢いづけると、3区の3年中尾紳二もトップ白山との差を6秒に縮めてリレー。**「1、2区で上位につけるのは狙い通り。さらに3区中尾が2位を守るのでなく、攻めて1位を狙いに行った。あの姿勢も大きなポイントになった」**。鈴木監督は振り返る。

4区中田も積極的に前を追って順位をキープ。5区の2年中村快成は一時先頭を奪うなど、区間新の力走を披露した。アンカーの2年今泉建人も歯を食いしばり、2位を死守してゴール。チームの過去最高順位を大幅に更新し、広島県の男子としても7年ぶりのトップ3入りを果たした。

快挙の影には入念な準備と地元の支えがあった。男子部員が前回の大会直前に体調不良に見舞われた反省を糧に、体調管理を徹底。練習後には地元有志の差し入れによるホットレモンを飲み、免疫力を高めてきた。大会の6日前には地元のゴルフ場、賀茂カントリークラブのはからいで、芝生の上を試走。選手の努力と周囲のサポートが、最高の舞台で実を結んだ。

全国中学校駅伝を走ったメンバーのうち、男子は4人、女子も3人が1、2年生。男子の2年生部員たちは準優勝にも悔しさをあらわにし、涙を流す姿もあった。**「2位の上はもう一つしかない。次は全国優勝を狙う」**と大きな目標に向けて、声と気持ちをそろえている。女子のアンカーを務めた2年生エースの岩本風音も**「来年はチームを引っ張り、入賞を果たしたい」**と力を込めた。

男女そろっての活躍に、広島県内の中学生も「僕も、私たちも」と大いに刺激を受けただろう。2年連続の男女アベック出場か、「打倒高屋」に燃えるライバル校が巻き返すか。2018年も師走まで目の離せない1年となる。

text by K

全国中学校駅伝大会を終えて

●開催日／ 2017年12月17日(日)●開催会場／滋賀県希望が丘

今年度、中国中学校駅伝競走大会(県駅伝)において、県内初の男女アベック優勝を成し遂げ、「チーム高屋」で全国中学校駅伝に挑むことができた。昨年度の経験が非常に大きかったと感じる。山口県から滋賀県へ全国の舞台が移った2年目。昨年度の経験者を中心に全国大会で走れるという栄誉やコースの特徴を伝え合い、男子は同じ東広島市内にある西条中学校以来となる準優勝。また、女子はチームが目標とする順位に3つ届かなかったが18位。

今年度春、「全国中学校駅伝に男女一緒に出場し活躍する!」が、チームの目標となった。男子は昨年、体調不良などで力を十分に出し切ることができなかった悔しさが、女子は男子の応援で全国の舞台を肌で感じたが、自分たちが出場できなかった悔しさが目標達成に向けてのエネルギーとなった。男子は体調管理を徹底的に意識し本番で力を発揮するためには何が必要かを個々が考え、お互いがアドバイスできる雰囲気を作った。女子は個々のレベルアップを図るための自主トレの工夫、安定して力を発揮するため、先輩後輩問わずアドバイスし合える雰囲気を作った。

12月17日、全国中学校駅伝女子は、1区の山際が中間点を過ぎたあたりからトップに立ち、先頭集団を引っ張るなど積極的な走りをした。2区以降、耐え忍ぶレース展開であったが、大きな舞台が初めての経験だったにも関わらず、持てる力を発揮できたことは今後につながると感じた。

男子は、1区吉本が7位と好発進し、2区の小江で2位に浮上した。昨年度この大会を経験した2人が最高の流れを作り、先頭を追いかけるには絶好の位置で3区にタスキを渡した。それ以降、優勝校の白山中学校(千葉県)と抜きつ抜かれつの手に汗握るレースを展開した。果敢に攻め、粘り強く我慢の走りをする女子の姿が、男子の気持ちに火をつけたのは間違いない。また、地域に支えられ、しっかり準備し大会に臨むことができた。芝のコースに慣れるため快く利用させてもらった学校近くにあるゴルフ場、風邪をひかないようにと大量にレモンを差し入れて下さった方、練習時励ましの声をかけてくださる方々、常にサポートして頂いた学校職員、「チーム高屋」すべてに関わっていただいた皆様に感謝いたします。

東広島市立高屋中学校　陸上競技部監督　鈴木　晶雄

男子

2位

(57'32")

中国中学校駅伝では、広島県初の男女アベック優勝を成し遂げることができました。しかし、男子はあまり喜んではいませんでした。なぜならば、総合タイムが自分たちが目標としていたものとかなり差があったからです。全国に出場が決まっても全く歯が立たないと思うと、嬉しさよりも不安の方が大きかったです。

私は、昨年度も全国中学校駅伝に出場しましたが、大会直前に体調を崩しチームに迷惑をかけてしまいました。本当にみんなには残念な思いをさせてしまいました。

昨年、全国中学校駅伝終了後、私がチームのキャプテンとなりました。最初にみんなに伝えたことは、「体調管理を徹底させよう!」、「今回の悔しさを次の全国大会で晴らそう!」でした。この2つをみんなで常に意識し、頑張ってきました。私は今年度、全国中学校陸上競技選手権大会、ジュニアオリンピックに出場できたので、全国へ出場して感じたこと、学んだことをみんなに伝えていきました。また、全国で勝負するために「自分よりも強い選手を意識して練習に取り組もう!」と、後輩たちに声かけをしていきました。

全国中学校駅伝当日は、一人一人かなり気合が入っていました。私は、とにかく前で積極的に勝負しようと、レースプランを考えて臨みました。レースでは先頭集団で走ることはできましたが、最後は力尽き7位で2区にたすきを渡しました。自分の走りには納得できませんが、2区以降の選手が順位を上げトップ争いをしてくれたので、チームのみんなに感謝しています。準優勝という結果を残すことができ、本当に嬉しかったです。

私は高校に入っても陸上を続けて、さらにレベルアップできるようがんばっていきます。最後に多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

東広島市立高屋中学校　男子キャプテン　吉本　真啓

女子

18位

(43'13")

私たちが悔し涙で終えた昨年の中国中学校駅伝から一年が経ちました。この一年私たちは、泣き合い、笑い合い、励まし合い、多くの事を乗り越えてきたように感じます。

駅伝シーズンになると、やはり始まるのがメンバー争い。朝練習ではメニュー以外に自主的に練習量を増やす部員が増えてきました。「絶対メンバーに入ってやる」と、一人一人の強い気持ちがチームの力を上げたのだと思います。そして中国中学校駅伝に向けての最後の大事な練習、みんなのタイムが良かったので「これならいける!」と、確信しました。メンバー発表では、涙を流す人もいて、メンバーは「その人の分まで走ろう!」、そう言って当日を迎えました。

結果は優勝。しかも男女アベックでの優勝。皆で抱きつきながら泣いて喜びました。本当に嬉しくてこの一年がんばってきて良かったと心底思いました。

それからというものたくさんの先生方や地域の方々が「おめでとう!」と言って下さいました。また、私たちが全国に行くために、本当にたくさんの方々にお世話になりました。私たちは様々な方々に支えられて、ここまで来れたと改めて実感しました。その方々の応援を力に変え、「走りで恩返しをしよう!」と、みんなで話をしました。「全国大会の目標は入賞」、そうして当日を迎えました。結果は18位、順位は目標に届かなかったけど、みんな積極的なレースができたので、悔いなく大会を終えることができました。

こうして私たちが全国の舞台で走れたこと。それは、ライバルだけどつらいことを共に乗り越えた仲間がいたから。そして、様々な面で支えて下さった保護者、先生方、地域の方々がおられたから。本当にたくさんの方々のおかげです、ありがとうございました。これからも「感謝」を忘れず、日々がんばっていきます。

東広島市立高屋中学校　女子キャプテン　山際　夏芽

天皇盃 第23回 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会を終えて

●開催日／2018年1月21日(日)●開催会場／広島県広島市

1区を予定していた梶山の状態は芳しくなく、1区の選手起用に最後まで悩んだが結果は凶と出でしまった。駅伝に「たら」「れば」は無い事は承知しているのだが…。

2区以降の選手も良く走ったが、流れを変えるまでの走りはできなかった。少しくらいの出遅れは、2区以降が順位を下げない走りすれば流れは取り戻せるのだが、今大会のように5区で順位を下げると命取りとなる。またレースを左右する高校生区間の1区に最上級生を起用できない年は苦戦している。順調に高校生を育成することが勝利への方程式であろう。

今大会でもふるさとランナーとして快く走ってくれた鎧坂もオリンピックイヤーには30歳を迎える。それまでには彼に優勝のフィニッシュテープを切らせたい。

広島県男子チーム　監督　岩本　真弥

総合成績／12位(2°21' 58")

1区	30位	20' 54"	梶山林太郎	(世羅高)
2区	14位	8' 43"	吉本　真啓	(高屋中)
3区	13位	24' 22"	藤川　拓也	(中国電力)
4区	9位	14' 44"	伊豫田達弥	(舟入高)
5区	22位	25' 44"	前垣内皓大	(世羅高)
6区	14位	9' 10"	中野　春希	(坂中)
7区	7位	38' 21"	鎧坂　哲哉	(旭化成)

伊豫田達弥選手のコメント

沿道からの絶え間ない声援が力になり、終盤でペースを上げることができました。最後に競り負け、目指していた区間順位に届かなかったので、来年はさらに上を目指して走り、広島の優勝に貢献したいと思います。応援ありがとうございました。

皇后盃 第36回 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会を終えて

●開催日／2018年1月14日(日)●開催会場／京都府京都市

前回大会は、1区46位の出だしが響き、遅れを取り戻せないまま36位でのフィニッシュとなった。今回は、1区西田(エディオン)が粘ってトップと42秒差の35位で2区以降につなぎ、そこから徐々に順位を上げて26位でフィニッシュを迎えた。特に5区相原(世羅高)が区間7位の8人抜き、7区平岡(舟入高)は区間4位と健闘した。8区下高(坂中)も区間15位、中高生のがんばりが目立った。駅伝には流れがある。上位でタスキをつなげることができれば、その流れに乗ってレースを展開することができる。また、4区で区間新記録をマークした長崎県の廣中のように絶対的な選手がいれば、そこから一気に流れをつかみ、上位に食い込むことができる。

男子同様、ここ数年どうしても上位でレースを展開することができずにいる。しかし、中高一般と一貫した強化策を図り、「チーム広島」としてメンバーを組むことができれば、過去最高の3位に近づく結果を残すことが出来るはずである。

今後も強化と普及を両輪として、広島陸上競技協会が一丸となって全国都道府県他校駅伝への取り組みを進め、そこから全国に通用する競技者を育成し、2020年の東京五輪に広島から選手を送り込みたい。

広島県女子チーム　監督　浜﨑　正信

総合成績／26位(2°22' 06")

1区	35位	20' 11"	西田　美咲	(エディオン)
2区	29位	13' 19"	安井絵理奈	(エディオン)
3区	43位	10' 30"	細迫　由野	(坂中)
4区	22位	13' 44"	小吉川志乃舞	(ユニバーサルAC)
5区	7位	13' 24"	相原　美咲	(世羅高)
6区	13位	13' 27"	森長　彩理	(世羅高)
7区	4位	12' 43"	平岡　美帆	(舟入高)
8区	15位	10' 28"	下高　美聡	(坂中)
9区	35位	33' 28"	渡邊　裕子	(エディオン)

相原美咲選手のコメント

私は全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に初めて5区を走らせてもらいました。実業団の人や速い選手がたくさんいて緊張したのですが、ここまで支えて下さった先生方やチームの皆のおかげで自信を持ってスタートラインに立つ事ができました。リラックスをして最後まで走りきる事ができたので良かったです。この1年間で今まで以上の練習を重ね、、来年も選んでもらえるように頑張ります。この度は多くのご声援ありがとうございました。

平岡美帆選手のコメント

この度、7区を走らせていただきました。昨年、緊張と悪天候に対応できず悔しい結果に終わってしまったので、今年区間4位で走れたこと、そして何よりたくさんの応援のおかげで楽しく走れたことを嬉しく思います。走るまでにたくさんの準備やサポートをして下さった先生方「広島がんばれ」と応援して下さった沿道の方々、本当にありがとうございました。来年は広島県のジャンプアップに大きく貢献できるよう力をつけて帰ってきたいです。

男子第68回／女子第29回 全国高等学校駅伝競走大会を終えて

男子第68回 20位(2°08'01")　女子第29回 9位(1°09'26")

●開催日／2017年12月24日(日)●開催会場／京都府京都市

男女ともに中心選手を故障で欠くことなり、苦しいレースになることは想定していた。女子については1区相原が自信に満ちた走りで、予想を大きく上回る順位で中継しレースの流れを引き寄せたに思えたが2区でまさかの順位を下げる結果になり、上位での流れを失ってしまった。後半の選手が持ち味を発揮できたことを思うと2区での後退は痛かった。男子は1区梶山が何とか持ちこたえ、まずまずのすべり出しであったが2区、3区と順位を大きく下げてしまいレースにならなかった。惨敗であった。

敗因は男女ともに3年生が1人しか起用できなかった、成長させきれなかった事に尽きる。責任は重い。幸い、今回走ったメンバーのほとんどが1年生2年生で、来年度以降この経験を生かして、さらに高みをめざしていきたい。

応援に駆けつけてくださったみなさん、世羅で応援してくださったみなさんには申し訳ない結果に終わったが、この結果をバネに、さらに力のあるチームを育てていきたいと思う。

今後ともご声援をよろしくお願いします。

広島県立世羅高等学校　陸上競技部監督　岩本　真弥

男子主将

幟立晃汰選手のコメント

今年は、春先からみんなの調子が上がらず、3年生がみんなを引っ張っていくことがうまくいきませんでした。自分自身も急きょ 3区を走ることになりましたが、全く納得のいく走りができませんでした。この悔しさを、今の1年生2年生がしっかりと胸に刻み、来年度以降雪辱を果たしてくれることと信じています。

女子主将

大西響選手のコメント

男子と同じように、女子も調子が上がらなかったり故障者も出たりして、なかなか立て直すことができない1年間でした。私自身も故障で走ることができず、練習でも大会でも下級生をリードすることができませんでした。私は、4月からユニバーサルエンターテインメントに進みますが、あこがれの小吉川先輩といっしょに走って、もっともっと強くなりたいと思います。

Time Another
REPORT

年代別レポート

小体連

東広島TFCの年

東広島TFCは東広島市を拠点に小学生を中心に陸上競技を指導し、在籍は80名以上のクラブである。2017年度は東広島TFCが圧巻の活躍を見せた年であった。●8月:全国小学生陸上競技交流大会・男子リレー、女子80mハードル出場●10月:広島県小学生総合体育大会陸上競技の部で男女ともに総合優勝●12月:全国小学生クロスカントリーリレー研修大会出場

このように、様々な種目において広島県内でトップクラスの成績を納めることができるのはどうしてか、その答えのいくつかを勤務先に届いた1枚のプリントから見つけた。そのプリントとは、2月中旬に行われる海田町駅伝大会の出場チーム一覧である。そこには、小学生男子:東広島TFC(A～G)、小学生女子:東広島TFC(A～F)、一般男子:東広島TFC(ちちX～Z)、合わせて16チームが出場したことになる。

ここから見えた強さの理由は「近隣の市町での大会まで子どもたちの活躍の場を積極的に求める」「陸上競技の楽しさを保護者にも伝え巻き込んでいく」などの指導者の姿勢である。花守慎太郎代表をはじめとする指導者の皆さまに敬意を表したい。

指導・普及委員会副委員長
海田町立海田南小学校　石川　和明

中体連

中学生の駅伝シーズンを振り返る。中国中学校駅伝において高屋中学校が県内初の男女同時優勝を飾った。

女子の第1中継所前までトップを守っていたのが1年生の山本悠理(大和中学校)。夏に行われた県選手権陸上において1年女子800m(2分20秒27)で優勝。秋に行われた県総体では1500mに出場し、4分41秒81の好タイムで2、3年生に一歩も引くことなく2位になった逸材である。1年生ながら中国中学校駅伝1区の難コースを積極的に駆け上がり、ラスト100mで追い抜かれはしたが堂々としたレースを展開した。

レースは1区からトップを走っていた坂中学校を4区で高屋中学校が逆転。5区で再び坂中学校の追撃にあったが逃げ切り、14年ぶり、3度目の栄誉をつかんだ。

男子は鮮やかなラストスパートで1区を制した坂中学校が好スタート。2区でトップを奪った高屋中学校が、そのまま逃げ切り連覇。1区でいい流れを作った小江幸人(高屋中学校)は、ジュニアオリンピック男子B1500m(5位)で入賞。2区を走った山本涼介(高美が丘中学校)は、8分54秒57のベストタイムを持ち全国中学校陸上選手権に2年生(長距離種目)で唯一出場。秋に入り、男女とも若い選手の躍動が見られたことで、来年度の広島県勢の活躍が期待できる。

12月に滋賀県で行われた全国中学校駅伝では高屋中男子が準優勝、女子は18位であった。男子は1区の吉本真啓(3年生)が7位と好発進。2区以降の選手も区間順位1ケタで走り、優勝した白山中学校(千葉県)との激しいトップ争いを繰り広げた。トラックの記録を単純に合計すると男子の持ちタイムは5番目、女子は23番目。男女共に力を十二分に出し切るレースであったと言える。

今年度も都道府県駅伝に向けての合宿、長距離ランナーの育成を目的とした選抜合宿が行われた。子どもたちが走ることを好きになり、強くなりたいと思わせ、主体的に練習に取り組ませるための取組が毎年行われている。

将来多くの子どもたちが陸上競技に魅力を感じ、陸上競技を通じて、健やかに成長してくれるためには、今後も陸上競技を普及するための活動と育成に力を注いでいかなければならない。

最後に、毎日の部活動指導に加え、合同練習や練習会を支えてくださっている指導者の方々に感謝したい。

東広島市立高屋中学校
鈴木　晶雄

高体連

トラック&フィールドのシーズンを終えて、本格的な駅伝・ロードレースのシーズンに入った。11月26日(日)に鳥取県境港市のサカイマリンマラソンコースで行われた中国高等学校駅伝競走大会に、広島県高校駅伝で6位に入賞した男女各6チームが出場。男子では世羅高校が前半の出遅れを3区以降がカバーして3位、西条農業高校も同様のレース展開で4位と2チームが入賞。女子は世羅高校が3区で2番手に浮上してそのまま2位、後半追い上げた沼田高校が6位、1区の貯金を守り切った西条農業高校が8位と3チームが入賞した。また、12月24日(日)に京都で行われた全国高校駅伝競走大会には、県代表として男女とも世羅高校が出場したが、男子は20位、女子は入賞まであと一歩の9位という結果であった。両チームとも1・2年生が主体のチームなので、来年に向けてより一層の成長を期待したい。

トラック&フィールドでは来シーズンに向けての強化練習が本格化している。12月25日(月)～28日(水)には香川県丸亀市で日本陸連U19ジュニア強化研修合宿・全国高体連陸上競技専門部強化合宿(中四国ブロック)が行われ、広島県から40名の選手が参加した。中四国各県から集まったトップクラスの選手たちと一緒に、各コーチの熱心な指導のもとで来シーズンのインターハイを見据えたトレーニングを精力的に行った。なお、今後予定されている選抜強化合宿としては、3月に大分県大分市で日本陸連U19ジュニア強化研修合宿・全国高体連陸上競技専門部強化合宿(全国合宿)、山口県山口市で中国高等学校体育連盟陸上競技部春季強化合宿が行われる。

もちろん、県内の各校においてもそれぞれ強化合宿や強化練習が行われていることであろう。平成29年シーズンは、広島県から近年では最多の118名がインターハイに出場したが、平成30年もより多くの選手が全国の舞台に進み、優勝や入賞を果たせるように、また全ての競技者が納得できる結果を出すことが出来るように、より一層の精進を期待したい。

広島県高体連陸上競技部競技力向上委員長　広島皆実高校
樋口　裕志

学生連盟

中四国学連後半は長距離の話題が多くあった。全日本大学駅伝予選会や出雲駅伝、全日本大学駅伝、そして中四国学生駅伝である。

今年度は出雲駅伝に中四国学連からは広島経済大学に加えてもう1校出場できるということもあり、予選会は例年以上に盛り上がりを見せた。その結果2校目は岡山県の環太平洋大学が出場権を獲得した。そして11月には全日本大学駅伝があり、中四国学連代表として広島経済大学が、また全日本大学選抜として山口大学の森重選手(広島県立祇園北高校出身)が出走した。中四国学連長距離の一大イベントである12月の中四国学生駅伝は、最後まで目の離せないレースとなった。

レースは広島大学と環太平洋大学が先頭争いをするという展開となり、5連覇中であった広島経済大学が最終6区まで追う形となった。この駅伝は、10月に行われる出雲駅伝の予選会にもなっている。先頭の広島大学と約1分30秒差で6区スタートした広島経済大学の木邑選手の好走により見事1位となった。

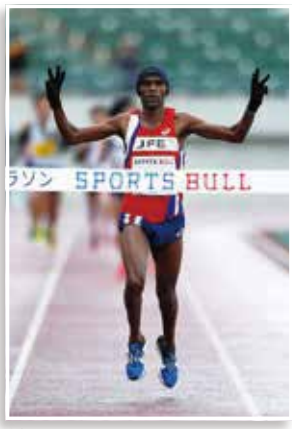
今年の中四国駅伝の結果から見えるように各校の長距離の力が拮抗してきているようにも感じる。特に環太平洋大学の主力はまだ下級生であり今後に期待が持てる。また広島大学も大学院に進む選手もいるようだ。しかし広島経済大学の全国の舞台を出走している経験値はどこの大学よりも上である。来年度の中四国学連の長距離は、今年度以上に拮抗するものと思う。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部幹事長
広島修道大学陸上競技部　山本　雄大

実業団連盟

全日本実業団ハーフマラソン大会

2月11日(日)に山口市の維新みらいふスタジアムを発着として行われた「第46回全日本実業団ハーフマラソン大会」でJFEスチールのチャールズ・ディランゴ選手が1時間01分55秒で2年ぶり3回目の優勝を果たした。



↑優勝ゴール

レース序盤はスローペースで進み、20人程の先頭集団で10kmを通過したが、17km付近ディランゴ選手のスパートで他を引き離し、そのまま優勝のフィニッシュテープを切った。雪が舞う気温2度の厳しいコンディションと序盤のスローペースが影響しフィニッシュタイムは伸びなかったものの、余裕を持ち終盤まで崩れない走りは見事であった。

大会後、ディランゴ選手は「前回大会3位と悔しい結果に終わったので、勝ちにこだわってレースをした。寒さや風でコンディションは良くなかったが優勝することができてとても嬉しい。」と喜びを見せた。また、女子ハーフマラソンでエディオンの西田美咲選手が1時間13分08秒で8位入賞を果たした。

広島県実業団陸上競技連盟　事務局
中電工　栗原　圭太

マスターズ連盟

総会が終わり、新年度スタート

広島マスターズ陸上連盟は1月28日に総会を行い、2018年新事業計画と宮本会長、波多理事長の現執行部体制が全会一致で再認され、新年度のスタートを切った。

今年度の最大の改革は、広島陸協を通じて「日本陸連への全員登録」である。広島陸協へ、名実ともに仲間入りすることとなった。(2018、19の2年間は移行措置がとられる)マスターズ陸上が目指して来た事が実行され、新しいステージへと進むこととなった。

事業計画では、広島マスターズ陸上選手権大会(6月10日びんご)、記録会(10月14日庄原)、中国マスターズ陸上選手権大会(7月14、15日山口・維新)、全日本マスターズ陸上選手権大会(9月22～24日鳥取・布施)、国際ゴールドマスターズ大会が10月27、28日(奈良)で開催される。駅伝では中国マスターズ駅伝が3月25日(国営備北公園)全日本マスターズ駅伝が10月に計画されており、昨年に続いての参加と入賞を目指している。

日頃からコツコツと練習に励み、生涯スポーツ(5歳刻みの年代別)で健康つくりに努力する仲間たちの活躍が期待される。

キャッチフレーズは… **明るく、楽しく、マナー良く!**

各々が目標を持ち、その目標に向かって励むマスターズ陸上会員の爽やかな姿…新しい仲間の参加を願っている。

●広島マスターズ陸上HPをご覧いただきたい。
ホームページアドレス
http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/

広島マスターズ陸上　広報
前田　征四郎

LIONスポーツスペシャル

RCCひろしま女子駅伝競走大会

そこにも、あそこにも、陸女がいっぱい!

●開催日／2018年3月4日(日) ●開催場所／広島県コカ・コーラウエスト広島総合グランド

走ることが好き、歩くことが好き、
走る人を応援することが好き、
ワクワクするその気持ち😊
そう！　あなたも陸女!!　RIKU★JO

2018 CHUGOKU WOMEN'S SERA EKIDEN

中国女子世羅駅伝競走大会を終えて

●日時／2018年2月11日(日)●開催場所／世羅町

あいにくの雨となった大会前日、世羅町入りをした。まず、目に入ったのが、コースに掲げられたピンクののぼりだった。等間隔に用意されたそののぼりは、役員をさせて頂く私まで気持ちをONに切り替えてくれた。大会も4年目となり、各中継所などの準備もスムーズに進んだように感じた。これも世羅町役場の方々をはじめ、競技役員の駅伝を支える力だと感じた。

私の現役最後の駅伝が、この前身大会である中国女子駅伝だった。何度も出場させて頂き、そのたびに競技役員をされている多くの方々に励ましの声をかけてもらい気持ちを新たにさせてもらっていた記憶がある。そして、何よりも競技役員の方々が華やかで活気に満ちた大会だった記憶も強い。いつしか広島の陸上を支える側として携わりたいと思わせて頂いたのもこの大会だった。

今の競技者も今後「する」スポーツから「観る」スポーツ、そして「支える」スポーツと視野を広げ、広島を盛り上げてくれる息の長い『RIKU★JO』となるよう、私も魅力ある競技役員を目指したい。

最後にこの大会に協賛頂いたJAグループ広島、ご尽力頂いた世羅町教育委員会、そして地域の方々に心よりお礼を申し上げます。

審判長　山田　貴子

平成30年2月11日(日)、寒風吹き荒れる「駅伝のまち世羅」において、2018年中国女子世羅駅伝競走大会が開催されました。

世羅で開催されるのを機に私が女子監督を拝命し、今回2度目の優勝を成し遂げることができたのも、日ごろから生徒を育てられ世羅陸協へ送り出してくださった地元中学校の先生方、世羅高校の岩本先生をはじめコーチの方々へまずは感謝いたします。また世羅高校陸上競技部出身で、現在ユニバーサルエンターテインメントでも活躍する小吉川志乃舞選手を快く派遣いただいた実業団関係者の皆さまにも、心より感謝申し上げます。

今回の勝因としては、区間配置がきちんとハマり、それぞれが持つ実力をしっかりと発揮し走ってくれたことだと思います。特に3区を任せた小吉川選手は、その前を走る2区の中学生に、「小吉川先輩が待ってくれているんだ!」、そして4区を走る中学生には、「小吉川先輩が笑顔で渡してくれた襷はしっかりと繋ぐんだ」という、図り知れない勇気とチカラを与えてくれたのではないかと感じました。1区、5区の高校生も素晴らしい走りをみせてくれ、悪天候にも関わらず大会記録にわずか及ばない素晴らしい記録で優勝できたことは本当に嬉しく思います。

「駅伝のまち」にある陸上競技協会として、これからも応援してくださる町民の皆さま、駅伝ファンの皆さまに、楽しみにしてもらえる、喜んでもらえる大会にできるよう一層競技に取り組んで参ります。最後に、大会を支えてくださった広島陸上競技協会の皆さまにも、厚く御礼を申し上げます。2019年大会、連覇が達成できるよう頑張ります!

世羅郡陸上競技協会　女子監督　西原　淳

最優秀選手賞

地元での大会に声をかけていただいて出場し、1位でタスキをつなぐという最低限の走りはできました。このような賞をいただいたことに感謝しています。今年はトラックシーズンで昨年より多くの大会に参加して記録を残し、駅伝シーズンに向けてがんばっていきたいと思います。

世羅陸協A
小吉川志乃舞選手

ドリーム賞

故障明けであまり走れないかと思いましたが、思った以上に体が動き、いい走りができました。これからも陸上を続けて、1位をとり続けたいと思います。寒い中、沿道で応援してくださった皆さんに感謝しています。

三原市体協A
山本　悠理選手

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- ●株式会社サタケ
- ●広島駅弁当株式会社
- ●株式会社広島銀行
- ●広島ガス株式会社
- ●広島電鉄株式会社
- ●学校法人石田学園
- ●株式会社中電工
- ●株式会社もみじ銀行
- ●広島綜合警備保障株式会社
- ●有限会社ニシヒロ
- ●アシックスジャパン株式会社
- ●有限会社道後山高原サービス
- ●株式会社体育社
- ●中国電力株式会社
- ●大塚製薬株式会社
- ●株式会社合人社グループ
- ●株式会社ツルハグループドラッグ&ファーマシー西日本

特別協力企業

- ●ミズノ株式会社
- ●株式会社キリンビバックス

(順不同)

平成29年3月24日　〒730-0011 広島市中区基町4番1号（公財）広島県体育協会内　Tel.082-223-3256 Fax.082-222-6991　E-mail:haaa@eos.ocn.ne.jp　URL http://hiroshimatf.org/
編集委員　藤原 文代・渡辺 勇一・金尾 誠可・河田 慎司・政 泰治・樋口 裕志・井上 恭治・鈴木 晶雄・山本 雄大・木本 慎吾・奥村 恵美子・栗原 圭太・中野 裕貴子